平成28年度　磐田市立長野小学校　　学校評価書

A：90％以上、B：70～90％、C：70％以下

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察○・改善策※	学校関係者評価委員から
やさしい子	◎言葉で気持ちを伝えられる子を育てる ・「ありがとう」「ごめんなさい」やあいさつを使う場を捉えて指導する ・カードを利用して褒める機会を増やし、児童の気付きを育てる ・人間関係作りプログラム等の継続、学活・道徳の授業を大切にして心を耕す	あいさつや返事ができる	B	○「ありがとう」「ごめんなさい」とともに、「日本一のあいさつができる学校」を目指し、場を捉えて繰り返し指導をしてきた。低学年でも会釈をする習慣ができつつある。 ○児童会の「ありがとうカード」を活用した活動を継続することで、子どもたち同士が友達のよさや優しさに気付き、伝え合うことができている。教師の「ほめほめカード」活用も定着し、子どもたちのよさを見付け本人や家庭に伝えることで称揚し、価値づけることができた。 ○「一人もひとりにしない」という合言葉が子どもたちにも浸透しており、様々な活動や指導の際、常にこの言葉に戻るようにしてきた。また、学活や道徳の授業、人間関係づくりプログラム等を実施を通して、相手の気持ちを考えることで、互いに支え合う学級づくりができた。 ※気持ちのよい声で、自分から、笑顔で、を意識した「相手に伝わるあいさつ」を目指す。 ※学年・学級で「増やしたい言葉（行動）」「なくしたい言葉（行動）」を考え掲示し、やさしい言葉遣いや行動ができるようにする。 ※各教室の「命と言葉を大切にするコーナー」や「ありがとうカード」を継続して活用しほめる機会を増やすとともに、さらに子どもの気付きを育てる。	・あいさつに関しては、児童・保護者の評価は高いが、教職員の評価は低い。そのためB評価になっている。低学年は元気よく、高学年は会釈もしながら等、発達段階に応じたあいさつができるとよい。交通指導隊からはきちんとあいさつができていると聞いている。 ・「学校が楽しい」と感じている子が多く、たいへんうれしい。 ・「一人もひとりにしない」言葉や行動について、機会を捉えて子どもたちと考えていくことが大切である。「ありがとうカード」等の取り組みも多くの子のよさを捉えるよい取り組みである。今後も相手の立場に立ち、思いやる心を育んでほしい。
		相手の目を見て「ありがとう」「ごめんなさい」が進んで言える	B		
		学校を楽しいと感じている	A		
		相手の優しさを見つけることができる	A		
		友達の気持ちを考えて行動している	B		
		学級は、互いにルールを守り、協力する雰囲気がある	A		
かしこい子	◎自ら考え、伝え合う子を育てる ・学習の構えをつくるために「１分前着席強化週間」を設ける ・授業の終りに、振り返りの時間を設ける ・１時間の中で、ペアやグループで伝え合う場をつくる	授業の内容が分かっている	B	○学習の約束の一つである「1分前着席」は、「強化週間」の実施や日々の実践で定着が図られてきた。学習の構えである学習道具の準備については、引き続き指導が必要である。 ○授業の中でペアやグループで自分の考えを伝える場を設けることにより、受け身ではなく全員が参加する授業を心掛けた。しかし、自分の考えを伝え合うだけで、お互いの考えを深め合う双方向の話し合いは難しかったため、今後も継続して指導を行う。 ○家庭学習の取り組みについては、年度当初や懇談会などで手引きやガイドを参考に取り組めるよう繰り返し啓発を行ったが、依然として個人差がある。 ※対話スキルをに身に付けるため、聞き方・話し方を学ぶ「コミュニケーション活動」を行う。 ※「分かった・できた」という学びの実感をもてるよう、継続して授業の中にペアやグループで自分の考えを伝える場を設けたり、終末に自分の学びを振り返る場を設けたりする。	・学習の構えとして学習道具の準備は必須である。必要に応じ保護者にも啓発していくとよい。 ・今の情報化社会がｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力が欠ける原因の一つとなっている。自分のことを友達や親、先生に相手を見て伝えられることが大切である。授業で「自分の考えを伝え合う」ことも一つの手段としてｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力を高めてほしい。 ・家庭学習で行うべき基準として「家庭学習の手引き」の活用については、継続して保護者に投げかけてほしい。
		1分前着席ができている	B		
		授業中に自分の考えを伝えることができる	C		
		決められた時間、家庭学習をしている	C		
		基礎的な学力が確実に身に付くように努力している	A		
たくましい子	◎めあてに向かって自ら努力する子を育てる ・外で体を動かす活動を、学級や学年、学校全体で工夫する ・登下校のきまりを確認し、自己評価する機会をつくる	よく外に出て元気に体を動かしている	A	○体力向上に向けての活動や行事（運動会・持久走・長なわ等）に対し、自分や学級の目標を立て、朝や休み時間を利用して、意欲的に練習に励むことができた。 ○通学班長会での指導や自己評価の実施などにより、高学年のリーダーを中心に安全に集団登校ができた。 ※登下校については、一部ルールやマナーに欠ける行動も見られたため、ルールを教師・子ども・保護者に示して指導を徹底し、安全に安心して登下校ができるようにする。 ※子どもたちの遊びがサッカーに偏りがちなため、様々な遊びの紹介や遊具や教材の工夫など、運動環境を整えることで遊びを通じて総合的な体力の向上をはかる。	・運動会などの体育的行事でめあてに向けて子ども達が懸命にがんばる姿が見られた。個人だけでなく、チームとしての団結が感じられた。 ・登校中、横断歩道で車を止めると、頭を下げていく姿が見られ気持ちがいい。
		自分に合ためあてをたてて運動している	B		
		子どもの体力向上に向けて行事や場の工夫をしている	A		
		きまりを守って安全に登下校している	B		
<u>家庭・地域との連携</u> 地域を理解し、親しみをもたせるとともに、豊かな感性を育てるための龍門館教育の継承を図る 本校の教育活動について理解してもらうための広報活動を充実させる		龍門館教育の伝統や地域を生かした特色ある教育活動を進めている	B	○昨年に引き続き、総合的な学習、読書活動、登下校指導、放課後子ども教室での学習など、保護者や地域の方の協力に支えられて充実した活動ができている。今後も地域との結び付きを大切にしたい。 ○地域の歴史や自然に関心があると答える子は毎年少ない。しかし、龍門館から続く長野小学校の歴史や中学年で経験する千寿の舞、5年生での米作りなど、地域教材と関わる機会は多くある。今後も地域とかかわりをもち、子どもたちの意識が高まるような支援をしていきたい。 ※今後も保護者に教育内容の理解を十分はかるために、PTA総会の際、学校の取り組みについての説明を行うとともに、学校便りやホームページでの情報公開を積極的に行う。	・昔と違い、今は自然に触れ、自然に学ぶことが少なくなってきた。学習の中で地域の歴史や自然、人とかかわることはたいへん有効である。 ・安心して外遊びができないような事件も起きている。「地域の子どもは地域で育てる」ために、地域の人がもっと子どもに接し、安心・安全な環境づくりに努めていきたい。 ・子どもが「学びたい学校」、保護者が「通わせたい学校」、地域が「支援したい学校」という関係づくりをしていきたい。
		めざす子どもの姿や、取り組んでいる教育内容などについて知っている	A		
		保護者・地域の方に学校の様子などの情報公開を行っている	A		
		子どもは住んでいる地域の歴史や自然について関心がある	B		

学校関係者評価を受けてのまとめ

本年度の教育活動について、高い評価を得ることができた。参観会での子どもたちの姿と学校評価の結果を通して、学校全体が落ち着いているという評価をいただくとともに、来年度の運営方針について了承を得た。話し合いを通して、協議員の皆さんの「学校とともに地域でも子どもたちを育んでいこう」という熱い思いが伝わった。保護者や地域の方、職員とが顔を合わせ会話することが、学校を支えていただく第一歩となり、子どもたちが地域の中で豊かに成長することにつながると改めて感じた。